

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立77年の歴史と伝統のもと、落ち着いた学習環境の中で生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、進路希望を実現できる学校をめざす

『君にしかできない夢が泉大津にある』をキャッチフレーズとし、将来の夢の実現に向けて取り組む生徒を育成します

- (1) 自らが抱いた「高い志」や「将来の夢」の実現に向けて、積極的に学力向上をめざす生徒
- (2) 高校生活の充実に向け、他の生徒と協調・協力しつつ、校内外の活動（学級活動・生徒会活動・部活動・ボランティア活動等）に積極的に取り組む生徒
- (3) 社会の一員として規範意識を持ち、積極的に社会と係わり、貢献できる生徒

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 「わかる授業、主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりをめざす

ア 授業力向上支援チームを核に、組織的な取り組みを進める。

・生徒の主体的取組を引き出す授業づくり（AL型授業）の実践と共有

・ICTを活用した授業改善の研究をすすめる。※2020年度までに電子黒板の全HR教室への設置と教員50%以上の活用

イ 観点別評価の実施に向けた研究を進める（教務部と各教科が担当）

ウ 基礎学力の定着と進路実現をめざした補習・講習の充実

進路指導部と教務部が連携を密にして、放課後や長期休業中の講習・補習を実施し、進路実現に向けた取り組みを充実させる。

※授業アンケートの平均点（H29=3.03/4点）を2020年度までに3.1以上とする。

※学校教育自己診断（生徒）「生徒の講習満足度」（H29=63%）を2020年度までに70%へ引き上げる。

- (2) ビジネス情報コースの充実・発展

ア 実践的な授業内容と生徒の進路実現に活かせる資格取得の取り組みを充実させる。

※全商簿記検定1級、全商ビジネス文書検定2級、全商情報処理検定2級取得者を出す。

2 「高い志」を育み、「将来の夢」を実現

- (1) 3年間を見通した志学、キャリア教育、人権教育を連動させた生徒育成プログラム（＝トータルキャリアプラン）の実行

ア 「総合的な学習の時間」とLHR等を連携させた指導を行い、地域人材・諸機関等の積極的な活用と高大等連携を進める。

- (2) 生徒一人ひとりが希望する進路を実現する為の組織的・計画的な進路指導

ア 学年ごとに適切な進路情報の提供を行い、進路個人カードの有効活用を通じた生徒の進路実現。

イ 学年・教科・分掌間の連携を図り、講習や面接指導等、希望する進路に応じた支援の充実。

※3年生4月当初の進学希望先調査を達成できた生徒の割合（平成29年度97.5%）を毎年0.5%引き上げ、2020年度までに99%にする。

就職内定率100%を維持する。

3 豊かな心の育成、自主性と規範意識の醸成

- (1) 生徒の規範意識を醸成し、個々の生徒への支援体制を強化する

ア 自主的に規律を守り、自らの行動を律する人をめざし、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。

※学校教育自己診断（生徒・保護者）「生徒指導への満足度」（H29 生徒・保護者=52%・68%）を2020年度までに生徒・保護者60%・75%以上とする。

イ 全教員がカウンセリングマインドを持って生徒指導にあたる。

ウ 支援教育コーディネーターを中心に、生徒一人ひとりへの支援とサポート体制を充実する。

※自己診断（生徒・保護者）「教育相談への満足度」（H29 生徒・保護者=56%・82%）を2020年度までに生徒・保護者=65%・85%以上とする。

- (2) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己肯定感を育み、連帯意識や公共精神を培う

ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で他者と協働する力を育む。

※自己診断（生徒）「学校行事への満足度」（H29 体育祭=78%・文化祭=76%）を2020年度までに80%以上とする。

※部活動加入率（H29=45.8%）を2020年度までに50%以上とする。

- (3) 生徒が安全で安心して学校生活を送ることができる環境の整備

ア いじめ・差別をしないさせない意識を醸成し、安心な学校づくりに努める。

イ 校内の教育相談体制の充実を図り、保護者や関係機関との連携を強化する。

ウ きめ細やかな保健・安全指導と事故防止の取り組みを進め、緊急事態発生時の迅速な対応を進める。

※自己診断（生徒）「人権に関する指導」（H28, H29 肯定率=74%, 84%）を2020年度までに80%以上を維持する。

4 総合的な学校力の向上

- (1) 初任者等、経験の少ない教職員とミドルリーダーの育成

※学校教育自己診断（教員）「経験の少ない教職員の育成」（H29 肯定率=91%）90%以上を維持する。

- (2) 校務の効率化と教員間のICTを活用した情報共有を進め、教職員のゆとりを生み出す

ア 電子掲示板の積極的活用や会議資料の事前共有で効率的な校務運営を推進する。

※自己診断（教員）「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」（H29 肯定率=51%）2020年度までに70%以上とする。

- (3) 本校の教育活動を積極的に発信し、広報活動の充実を図る

ア 中学校、保護者、教育関係者に向けて、様々な方法で情報発信を行う。

イ 生徒参加による学校説明会や中学校訪問を実施して、本校の教育活動の理解を拡げる。

ウ 中・高連携を深め、その実践を通して、中・高での連続性のある系統的な学びを実現する。

※学校説明会参加者アンケートの肯定的評価（H29 中学生・保護者=90%・90%）を2020年度までに90%以上を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【中期的目標の項目に沿って結果分析】</p> <p>1・学校が楽しい（72→74→74%） ・学びたい科目が選べる（77, 82, 81） ・ICT利用、体験的学びの充実（52, 55, 64）・講習満足（64, 63, 66） [分析]・学びの生徒評価は上昇しており、今後もICT活用や体験的な学習機会を拡げる必要がある。</p> <p>2・進路情報の提供（82）現行の取り組み評価は高い。進路指導の評価は高くない（68→66）[分析]主体性を引出し、進路意識を高める工夫が必要</p> <p>3・行事満足80超と高い。生活面の指導は（43, 52, 47）不満が高い （分析）遅刻や身嗜み等の必要な指導はあるが、納得感を持つ指導が必要</p> <p>4・適材適所の配置に不満。強いリーダーシップの発揮に期待 [分析]・校内人事での細かい聴取は必要（年齢構成の歪み） ・教職経験年数で意見に差、意見統一の機会が必要 ・経験の少ない教員の負担感</p>	<p>【1回】観点別評価の導入について細かく目標設定し、評価規準をしっかりと決めて、その積み重ねで評価することになる。大変な労力だが、しっかりと推進してほしい。新任教員の研修は、負担が多くならないような工夫が必要。</p> <p>【2回】ICT 機器の活用について、環境は整いつつあるので、それらを活用してどのような授業を展開していくかが課題である。</p> <p>【3回】生活指導の肯定評価が、生徒47、保護者75%と開きがある。保護者の理解はあるが生徒に納得のいく説明と指導が必要。部活動104日の休日設定について学校ごとの実行の工夫が必要。教職員の多忙化解消には困難も多いが検討の必要がある。業務や行事等の見直しも必要。例えば中学校では、学力テスト等があり、日常的に観点別評価を実施しているため、定期考査の意義も検討されている。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)「わかる授業、主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりをめざす ア授業力向上支援チームを核に、組織的な取り組み イ基礎学力の充実と進路実現をめざした補習・講習の充実 (2)ビジネス情報コースの充実・発展	(1)ア 生徒の主体的な取組みを引出す授業づくりの実践 ・AL型授業の実践と校内の情報共有 ・授業でのICT活用力の向上(2020年度までに全HR教室に電子黒板設置と日常的活用の向上) (授業力向上支援チームが担当) ※「学校における教育の情報化の実態等の調査」の「B授業中にICTを活用して指導する能力」の向上 イ 観点別評価の研究と調査を進める(教務部と各教科) ウ・1,2学期での学力不振者へ補習充実で支援 ・進路実現をめざす講習充実(放課後、長期休業中等) (進路指導部と教務部の連携して推進する) ※学校教育自己診断(生徒)「生徒の講習満足度」(H29=63%)を2020年度までに70%へ引き上げる。 (2)ア・魅力ある授業づくり(外部団体や外部専門家を活用した実践的な授業づくり) ・生徒や社会のニーズに合った進路実現に有利な資格取得	(1)ア・教科の観点別評価の更新 ・学期2回AL型授業公開と協議 ・ICT機器の活用研修2回 ・電子黒板15教室(H29=9教室) ・授業アンケート結果の向上 学校平均3.07以上(H29=3.03) ※「ややできる以上」70%(H29=58%) イ・研修実施し、行動プランを策定 ウ・数理英の補習を実施 ・夏期講習・講習参加率50%以上(H29 全校=46%) ※学校教育自己診断(生)「生徒の講習満足度」H29=63%以上 (2)ア・外部連携1件以上 外部専門家活用1件以上 ・全商簿記・ITパスポートの取得 ・コース選択者を30名(H29=8名)	(1)ア・更新済(○) ・2回以上(○) ・2回(○) ・電子黒板9→20教室(◎) ・授業ア3.03→3.11(○) ※ICT活用→項目変更で評価不可 イ・先進校研修等4回。観点別評価のWG設置へ(○) ウ・数理英で補習実施(○) ・夏期講習46→50.7%(○) ※満足63→66%(○) (2)ア・大学連携研修2名派遣(○) ・全商25、IT受験2取得0(○) ・選択者8→27名(△)大幅増加
2 将来の夢を育み、高い志を育む	(1)3年間を見通した志学、キャリア教育、人権教育を連動させたトータルキャリアプラン実行 (2)生徒一人ひとりの希望進路が実現できる組織的・計画的な進路指導	(1)ア「総合的な学習の時間」とLHR等を連携させたキャリア教育の構築(トータルキャリアプラン) ・学びの場を拡大し、体験・経験を豊かにする(地域人材・諸機関等の積極的活用と高・大等連携) (2)ア 学年ごとに適切な進路情報の提供を行い、進路個人カードの有効活用を進める ※「1,2年次での質の高い進路目標の保有」を図る イ 学年・教科・分掌間の連携を図り、講習や面接指導等、希望する進路に応じた支援の一層の充実と希望の実現	(1)ア・地域人材・機関等の活用を2件、大学等の体験的行事を各学年3回 ※「自己診断(生徒)「進路の総合的学習が役立つ」肯定意見(H29=68%)を70%以上 (2)ア・前年度以上(H29=1年64%, 2年99%) イ・3年次希望進路の100%維持 ・就職内定率100%を維持	(1)ア・専門学校、看護・保育体験等で地域人材活用(○) ※役立つ68→66.1%(△)未達成 (2)ア・提供(全学)80→82% 1年64,2年99%→84,83%(○) イ・進路希望97%(○)※家庭事情による変更あり ・内定100%維持(○)一次83.7%
3 豊かな心の育成、自主性と規範意識の醸成	(1)生徒の規範意識を醸成し、個々の生徒への支援体制を強化 (2)特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己肯定感を育み、連帯意識や公共精神を培う (3)生徒が安全で安心して学校生活を送ることができる環境の整備	(1)ア自主的に規律を守り、自らの行動を律する人をめざし、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める ・全校をあげた遅刻指導の徹底で遅刻数の大幅減 イ・身だしなみの意義を理解し、全校一致した目標(頭髮・制服等)を生徒と共有し、規範意識を醸成する ・問題行動等を生徒自らが考え、学校生活を落ちついた中で過ごせる支援を行う ウ・自転車通学者のマナー指導を警察と連携して行い、体験的な交通安全講習会を実施 エ・全生徒が「薬物ノー」と言える「薬物乱用防止教室」の取組み改善と外部との連携強化 (2)行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で他者と協働する力を育む ア・体育祭、文化祭を生徒会の自主的運営に委ねる ・生徒会・各クラス委員が連携し、教員とともに、「あいさつ運動」を継続展開し、あいさつのできる学校をめざす イ・生徒会が中心となり入学時からの取組みの充実を行い、部活動加入率を上げる ・部活動における小・中学校との交流を活発化する ウ・生徒が自主的清掃活動に取り組むよう保健部が中心となって啓発活動を行う エ・さまざまなボランティア活動情報を提供し、参加生徒を募り参加させることで、自尊感情を高め、他者尊重の精神の涵養から社会に貢献できる人材育成を図る (3)ア・系統的な人権教育を通して、いじめ・差別をしないさせない意識を醸成し、安心な学校づくりに努める イ・「高校生活支援カード」を活用して教育相談・支援委員会が適切に対応する。保護者や関係機関との連携を図る ウ・地域の防災関係機関等と連携して緊急対応マニュアルの更新を行い、実践的な防災避難訓練	(1)ア・年間遅刻数2800件以下(H29=3027件) イ※「学校生活での先生の指導」の肯定意見55%以上(H29=52%) ウ・体験的交通安全講習会1回以上 エ・「薬物乱用防止教室」をAL型の取組みで実施1回以上 (2)ア※自己診断(生)「生徒会活動」肯定率50%以上(H28,29=41,52%) ※自己診断(生)「行事の満足度」(H29 体育祭・文化祭=80%以上) ※自己診断(生)「高校に入ってからあいさつするようになった」を70%(H29=67%) イ・1年生の部活動加入率の50%台(H29=40.6%) ・小・中学校との交流を種目・回数で増やす(H29=7クラブ22回) ウ※自己診断(生)「清掃活動を積極的に行う」肯定意見70%(H29=67%) エ※ボランティア参加生徒100名以上(H29=8事業、延べ85名参加) (3)ア※自己診断(生)「人権に関する指導」肯定80%(H28,H29=74,84%) イ※自己診断(生徒)「担任以外に気軽に相談に乗ってくれる」肯定60%以上(H29=56%) ※自己診断(保)「教育相談に適切に応じる」肯定85%以上(H29=85%) ウ・地元との防災対策協議とマニュアル更新。実践的訓練実施1回	(1)ア・遅刻3027→2487件(-18%) イ・生活指導52→47%(△) (但し、生徒指導案件-30%減少) ウ・1回実施(○) エ・全学年1回実施(○) (2)ア・生徒会52→42%(△) ※学校祭満足76,78%→82%(○) ※挨拶67→68%(△)微増で上向(行事の達成感高く、生徒主体の取組み進む) イ・部加入40.6→45.7%(○) (50%未達だが上昇傾向) ・交流7ク22→8ク50回(○) ウ・清掃67→71%(○) エ・ボランティア8・85→8事53名(△) (3)ア・人権84→88%(○) イ※相談に乗る56→61%(○) ※適切に応じる85→86%(○) ウ・初期対応で協議。更新済、訓練1回(○) ※災害時の安否確認等のBlog、Eメール活用を検討。更に整備が必要
4 総合的な学校力の向上	(1)初任者等、経験の少ない教職員とミドルリーダーの育成 (2)校務の効率化と情報共有を進め、ゆとりを生み出す (3)本校の教育活動の積極的発信と広報活動の充実	(1)ア・高い人権意識を育み、生徒理解を高める校内研修の実施。学校諸課題の理解を深める校外研修への参加 イ・初任者・経験の少ない教員、メンター(4~10年目)、管理職・首席・教科指導員が定期的に研究授業・協議を実施。それぞれの課題を共有し、資質の向上をめざす (2)ア・連絡事項の電子掲示板の活用や会議資料の事前の共有で会議時間を有効活用を進める ・個人情報管理の周知徹底を図る (3)ア・中学校、保護者、教育関係者に向けて、様々な方法で情報発信を行う イ・生徒参加による学校説明会の実施。全教員での中学校訪問による広報活動の実施(泉大津高校の魅力とめざす姿がわかるビデオの制作と活用) ウ・泉大津市近隣中高連絡協議会による中高連携を深め、授業交流・出前授業・公開授業の実践を通じて、小中高の系統的な学びを実現する。	(1)ア・人権研修(教)1回以上 ・校外研修等の成果共有4回以上 イ・年間3回以上 ・自己診断(教)「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」肯定90%維持(H28,29=69,91%) (2)ア自己診断(教)「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」60%以上(H29 肯定率=64%) ・個人情報管理の違反なし (3)ア・各種ブログ(年200件超) ・部活動HP更新年2回以上 ・各市広報誌へ発信(年4件超) ・自己診断(生・保)「学校HPブログよく見る」14,27%→+3% ※Eメッセージ登録68.5→+3% イ・学校説明会3回実施 ・参加数の増加(H29=3回533名) ・同参加者肯定評価90%以上維持(H29 中学生・保護=90%・90%) ・中学校訪問30校以上(H29=30校) ウ・授業交流の参加教員満足度90%以上(H29=100%) ・中学の出前授業で中学生満足度90%以上(H29=85%)	(1)ア・休校で未実施(-) ・4回以上実施(○) イ・3回実施(○) ・育成体制90→78%(○)※経験少ない教員82~91%と高く、育成体制は整う (2)ア・有効機能64→55%(△) ・違反有(△)※該当研修を強化 (3)ア165→182件(3/22) ・更新2回(○) ・市報年4→2件(△)※市コラボ授業の内容変更(ゴミ減量) ・閲覧14,27%→26,39%(◎) ※登録68.5→73.1%(◎)緊急情報発信でEメールが有効性を発揮 イ・説明会3回(○) ・参加者533→567名(○) ・肯定90・90→87・70%(△) ・訪問30→34校(○) ウ・教員満足100→100%(○) ・生徒満足85→93.5%(○)